

平成 21 年 6 月 18 日

報道関係者各位

国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学  
Fraunhofer Institute for Experimental Software Engineering  
日本アイ・ビー・エム株式会社

## ソフトウェアインスペクションの技術者の交流と 先進的技法の評価を目的としたワークショップを開催 ～ ソフトウェア欠陥の早期発見技術の発展に寄与 ～

奈良先端科学技術大学院大学（学長：磯貝彰）情報科学研究科ソフトウェア工学講座とドイツ Fraunhofer Institute for Experimental Software Engineering（フラウンホーファ実験的ソフトウェア工学研究所：エグゼクティブディレクター：ディーター ロンバッハ）が、ソフトウェアインスペクションに関する技法や研究テーマに関する知見を共有することを目的に、2009 年 2 月に設立した Working Group of International Research Cooperation on Software Inspections（ソフトウェアレビュー／インスペクション研究の国際連携ワーキンググループ）は、日本アイ・ビー・エム株式会社（社長：橋本孝之、NYSE：IBM、以下、日本 IBM）と共同で、開発途上のソフトウェアの欠陥を未然に発見し、ソフトウェアテストを補完する「ソフトウェアインスペクション」技術に関するワークショップを開催します。

本ワークショップは、世界的にみても開催される機会が少なかった、ソフトウェアインスペクションを実践する技術者が議論、交流できる場を提供し、ソフトウェアインスペクション技術やソフトウェア品質向上技術の発展に貢献します。また、ソフトウェアインスペクションの技法を紹介するとともに、日本 IBM が国際的なソフトウェア品質研究コミュニティにおいても提唱しているクオリティインスペクションの技法と実践を披露します。

### 【開催概要】

日時：2009 年 7 月 2 日（木） 13:30～17:45

場所：キャンパスイノベーションセンター東京 1F  
東京都港区芝浦 3-3-6

ワークショップアジェンダ：詳しくはこちらの Web サイトをご覧ください

<http://se.aist-nara.ac.jp/events/siw2009.html>

参加資格：本イベントは、ソフトウェアレビュー／インスペクションの経験者を前提として、参加者に Java®ソースコードのインスペクションを実際に実施していただきます。これらに関する知識がある方に参加いただくことを前提としています。

参加方法：上記の Web サイトよりお申し込みください（本日より申し込み可）

定員：60 名（定員になり次第締め切り）

費用：無料

### 【議論の題材と進め方】

Java ソースコードを対象として参加者にコードインスペクションを実施していただきます。その後参加者間で評価、議論します。議論に先立ち、インスペクション対象の局所化技術を実際にご覧いただけます。議論では、参加者自身のソフトウェアインスペクション/ソフトウェアレビュー技法を洗練し、改善点を参加者自身によって発見できるよう促します。議論の題材となる Java ソースコードは国際連携ワーキンググループが提供し、局所化技術に必要なツールとして日本 IBM が「IBM® Rational® Software Analyzer」を提供します。

また、議論の基本的な方向はソフトウェア開発に関する国際実証研究コミュニティでも広く用いられている「開発コンテキスト（状況や事情）の抽出」と「コンテキストに照らし合わせた効果の検証や吟味」を中心に進めます。

### 【技法紹介】

ソフトウェアインスペクション/レビュー技法の概要紹介と本ワークショップで紹介する技法の位置づけ、日本 IBM でのクオリティインスペクション(\*)の理論と実践を紹介します。実践事例では大規模ソフトウェアのインスペクション/レビューに欠かせないツールを用いた事例を紹介し、自動化が難しいソフトウェアインスペクションではどのように自動化を進めていくかということについて例題を示しながら進めます。

\*Nobuhiro Hosokawa: Data-driven quality inspection: Human-centered defect lifecycle management from industry practice, In proceedings of 4<sup>th</sup> World Congress for Software Quality (2008)

### 【評価結果の公開】

本ワークショップで実施したインスペクションの結果は、個人情報情報を削除した上で研究論文として公開し、研究開発コミュニティの発展に貢献する予定です。

### 【用語解説】

#### ソフトウェアインスペクション

ソフトウェアインスペクションとは、1976年に IBM Michael Fagan 氏により提案されたソフトウェアの品質向上技法であり、開発途上のソフトウェア（仕様書、設計書、ソースコードなど）を作成担当者以外の開発メンバ、あるいは第三者が調べることにより欠陥を発見する技法です。

これまで、多くのソフトウェア開発では、実際にソフトを動かすテストによる品質向上活動が中心となっていました。テストでは開発の過程で混入された欠陥を発見することにより品質を高めます。ソフトウェアインスペクションは開発の序盤の工程から実施可能であり、欠陥の予防と欠陥の発見に必要なコストとスケジュール遅延のリスクが低減できます。さらに、インスペクション実施により欠陥を早期発見することで、テストで検出する場合と比較して修正コストが 20%程度に抑えられることが報告されています。

### 【その他】

IBM、IBM ロゴ、ibm.com、Rational は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corp. の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、<http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml> をご覧ください。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標。

【本プレスリリースに関するお問い合わせ先】

奈良先端科学技術大学院大学 情報科学研究科 ソフトウェア工学講座

助教 森崎 修司 (もりさき しゅうじ)

TEL 0743-72-5312 E-mail: [smrs@is.naist.jp](mailto:smrs@is.naist.jp)

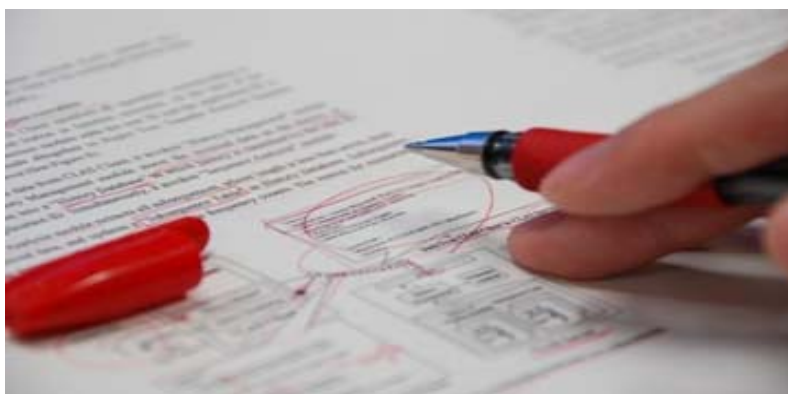
日本 IBM 広報 日比野 佐衣子 (ひびの さえこ)

TEL 03-3808-5187 E-mail: [saekoh@jp.ibm.com](mailto:saekoh@jp.ibm.com)

以降、告知 Web ページの内容

## ソフトウェアインスペクション・ワークショップ 2009

ソフトウェアインスペクション/ソフトウェアレビューを体感する一日



ソフトウェアレビュー(ソフトウェアインスペクション)の効果が今ひとつ上がらない。そんな悩みをお持ちでないでしょうか?本ワークショップでは、日本 IBM のインスペクションのスペシャリスト、インスペクション研究の国際連携メンバからインスペクションの技法や動向を紹介し、ワークショップ参加者に実際にソースコードインスペクション(ソースコードレビュー)を実施していただきます。その後、参加者間でその結果にもとづいてディスカッションし、パネルディスカッションで明日の改善につなげるために何をすべきかを考えます。

主催	<a href="#">Working Group of International Research Cooperation on Software Inspections</a> (ソフトウェアインスペクション研究に関する国際連携ワーキンググループ)
共催	<a href="#">国立大学法人 奈良先端科学技術大学院大学</a> <a href="#">Fraunhofer Institute for Experimental Software Engineering</a> <a href="#">日本IBM 株式会社</a>
開催日時	2009年7月2日(木) 13:30-17:45(受付開始 13:15~)
会場	キャンパスイノベーションセンタ 東京 1F 国際会議室 (東京都港区芝浦 3-3-6: JR 田町駅から徒歩1分) <a href="#">地図</a>
参加資格	本イベントは、ソフトウェアレビュー/インスペクションの経験者を前提として、参加者に Java ソースコードのインスペクションを実際に実施していただきます。これらに関する知識がある方に参加いただくことを前提としています。詳細は、以下の「ハンズオンの主旨」をご覧ください。
参加費	無料(ただし、ハンズオンの主旨に同意の上、事前登録していただく必要があります)
ハンズオンの主旨	参加者全員にレビュー/インスペクションを体感、その結果を議論していただくことを前提としています。主催者が用意する Java ソースコードを対象として、指定されたリーディング技法(読み進め方)で実際にコードインスペクション(コードレビュー)を各々の参加

	<p>者が実施します。その後、参加者どうしで、指摘内容や技法に関してフリーディスカッションをしていただきます。参加者のインスペクション結果は個人情報を削除した上で、主催者であるワーキンググループの研究題材(ケーススタディ)として用い、より効果的なインスペクション技法を検討するために活用します。また、検討結果は テクニカルレポート、論文、記事等の文書として公開される予定です。</p>
申込み方法	<p>参加登録は<a href="#">こちら</a>から(日本IBMのサイトで登録いただきます。登録情報の扱いは日本IBMのプライバシーポリシーに従います)</p>
持参物	<p>筆記用具をお持ちください。ハンズオンセッションにて、コードインスペクションの結果を主催者が用意する用紙に記録していただきます。また、参加者どうしのディスカッションにおいて書記の方に用紙への記録をお願いする予定です。</p>
定員	<p>60名(予定)</p>
詳細(内容、時間帯は変更になる可能性があります)	<p>13:30～13:50 開催にあたって ～ソフトウェアインスペクション技法の概説、ワークショップ趣旨説明～</p> <p>Working Group of International Cooperation on Software Inspection / 奈良先端科学技術大学院大学 森崎 修司</p> <hr/> <p>13:50～14:10 第三者インスペクションによる品質確保と欠陥予防(講演または実演形式)</p> <p>日本 IBM 細川宣啓 氏</p> <hr/> <p>14:10～14:20 休憩</p> <hr/> <p>14:20～14:30 ハンズオンの概説</p> <hr/> <p>14:30～15:40 ハンズオン(参加者に実際に Java 言語のコードレビューをしていただきます)</p> <hr/> <p>15:40～16:05 参加者間でのハンズオンに関するディスカッション(グループに分かれて参加者どうしで議論いただきます)</p>

16:05～16:20 休憩

16:20～17:10

パネルディスカッション ～ 明日からのインスペクション/レビューに活かすためには？  
(仮) ～

モデレータ: 新野 淳一 氏(前@IT 発行人)

パネリスト: 越水 喜之 氏(日本 IBM)、細川 宣啓 氏(日本 IBM)、森崎 修司(奈良先端科学  
技術大学院大学)

17:10～17:40 IBM セッション

17:40～17:45 クロージング

## Q&A

**Q** ハンズオンとは何ですか？

実際に手を動かしていただくことを指します。今回のワークショップでは、主催者が用意する題材で、主催者が指定する技法(読み方)でソースコードインスペクション(コードレビュー)を実施いただきます。ハンズオンの後、参加者どうしの議論のセッションで技法の比較をしていただきます。

**Q** ハンズオンの結果はどのように使うのですか？

主催者であるワーキンググループの研究題材(ケーススタディ)として使い、より効果的なインスペクション技法を検討するために活用します。研究以外の用途には使いません。また、検討結果、アンケート結果、指摘票から個人情報削除したもの等をテクニカルレポート、論文、記事等の文書として公開される予定です。

**Q** ハンズオンには参加しないといけないですか？

全員参加です。

**Q** ハンズオンの結果は誰が保管するのですか？

奈良先端科学技術大学院大学が研究目的で保管し、元データ(エラー指摘表等)は同大学とフラウンホーファ実験的ソフトウェア工学研究所(Fraunhofer Institute for Experimental Software Engineering)以外は参照しません。

**Q** どのようなハンズオンなのですか？

参加者1人1人に、同一のソースコードと空の指摘票を配布します。ハンズオンではソースコードをみながら、指摘票に発見した問題点を記入します。また、登録時に答えていただく簡単なアンケートに基づき、読み進め方のガイドラインもお渡しします。それぞれの技法に沿って読んでいただき、その後、参加者どうしでディスカッションしていただきます。

**Q** 読み進め方の技法を自分で選びたいのですが？

ディスカッションで技法の比較をするため、主催者の検討材料をするため、今回は事前のアンケートをも

とに主催者から指定します。

**Q** ハンズオンの内容を事前に入手できますか？

できません。当日配布になります。